

# 障害者支援施設入所者・入所待機者および精神科病院入院者意向調査 調査結果（概要版）

## ◆調査概要

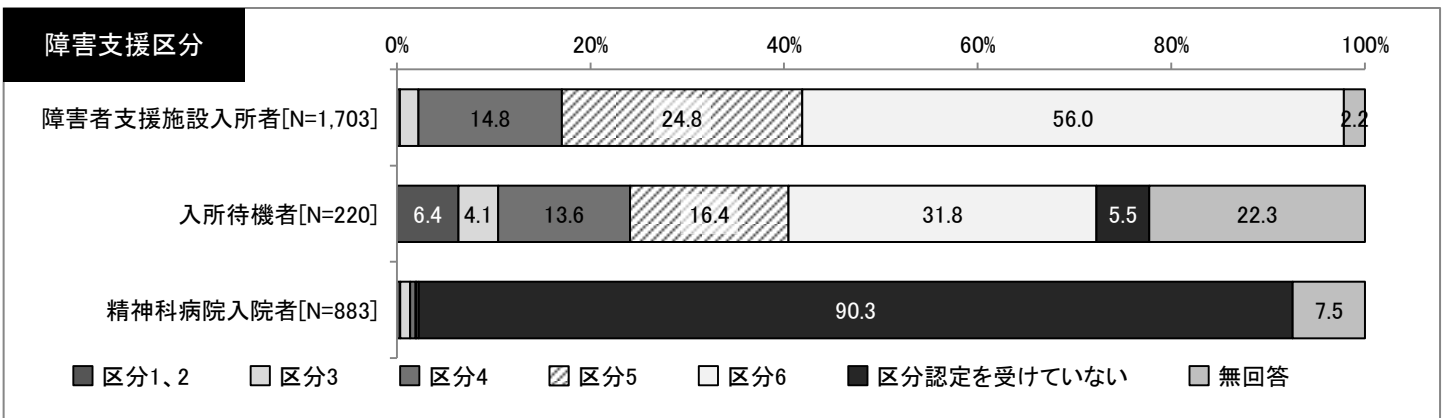
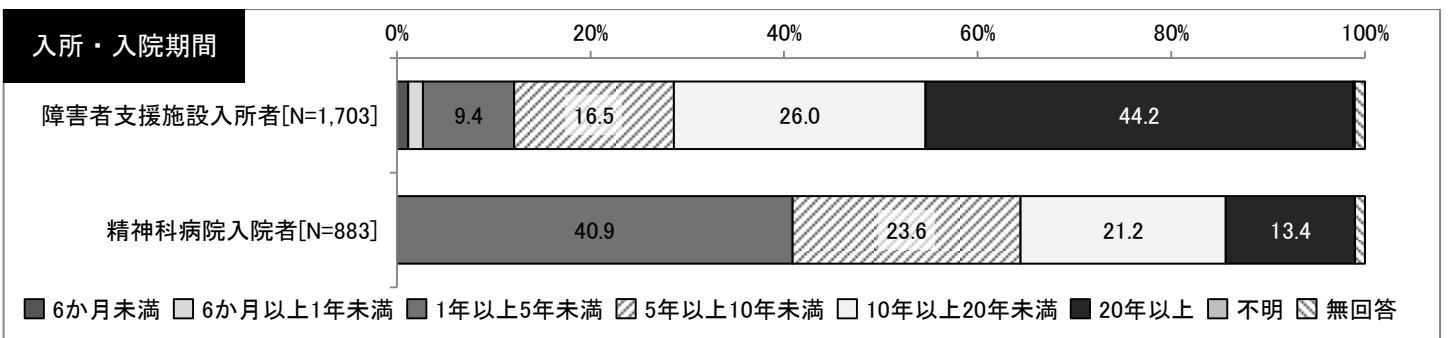
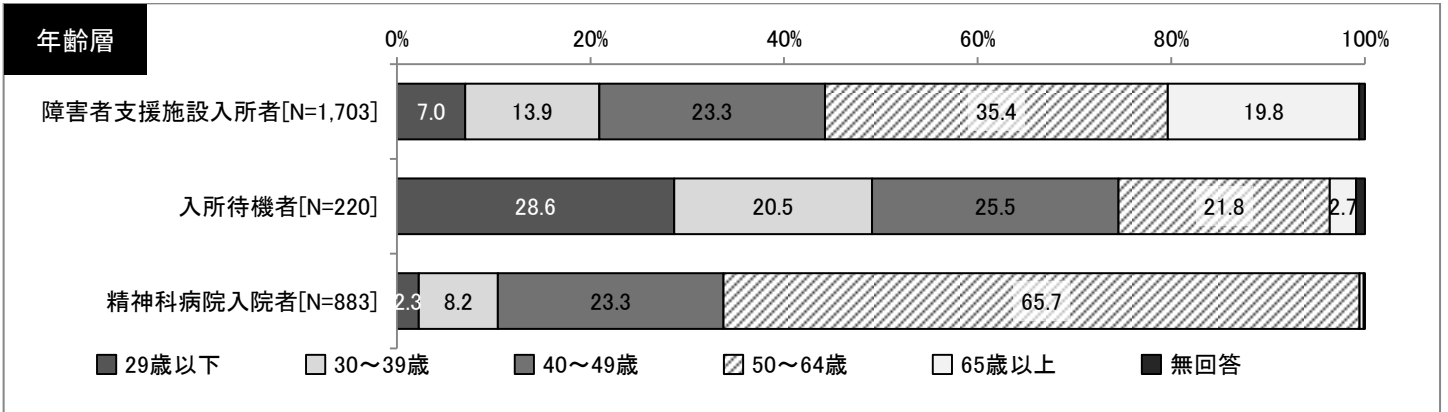
- 障がい者の地域生活に係る意向や必要な障害福祉サービス等を明らかにするとともに、次期プランの策定における基礎資料とする。

調査対象	県内の障害者支援施設入所者（全数）およびその家族 入所待機者・家族（全数） 精神科病院入院者（入院1年以上で65歳未満の医療保護・任意入院者からの抽出調査）
調査期間	平成26年8月11日～9月24日（調査基準日：平成26年6月30日）
調査方法	入所・入院者は支援職員による聞き取り、入所待機者・家族は郵送調査、入所者家族は各施設を通じて調査票を配布・回収

## ◆対象者の状況

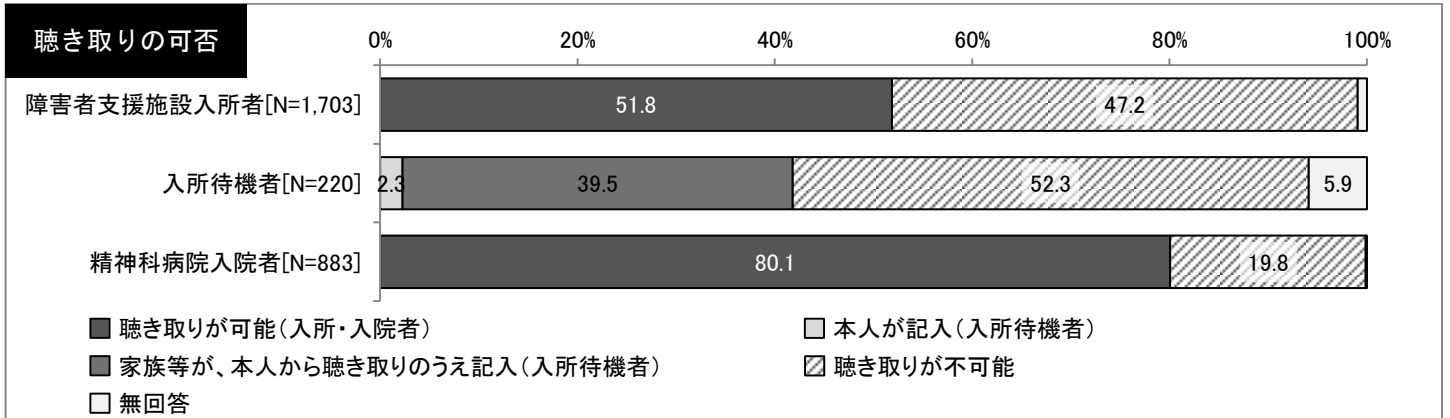
### （対象者の属性）

- 対象者の年齢層は、施設入所者・待機者は比較的分散している。病院入院者は50～64歳の層が多い。入所・入院期間は、施設入所者で「20年以上」という人が半数近くを占める。障害支援区分は、施設入所者・待機者では「区分6」が多く、病院入院者では「区分認定を受けていない」人が多くなっている。



**(聴き取り調査の可否状況)**

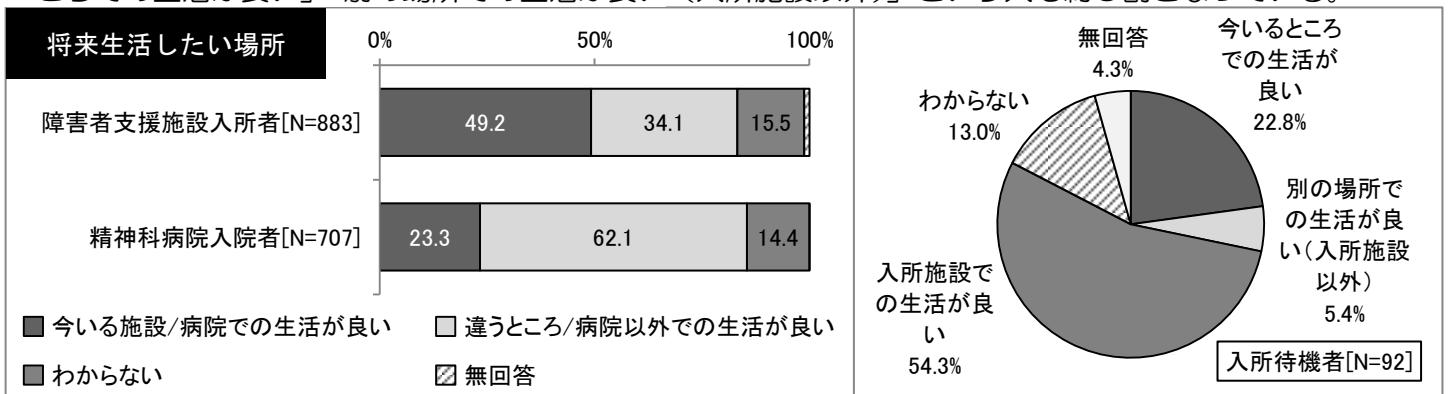
- 施設入所者、病院入院者の職員による聴き取り調査の可否判断については、「聴き取りが可能」という対象者が施設入所者ではほぼ半数、病院入院者では8割となっている。入所待機者では、回答可(「本人が記入」「家族等が、本人から聴き取りのうえ記入」)は4割程度となっている。
- 入所者では半数近くが「聴き取りが不可能」となっているが、これは今回の調査内容や調査方法が要因となっている面もあると思われる。本人の意向を確認できるよう、意思疎通の円滑化が望まれる。



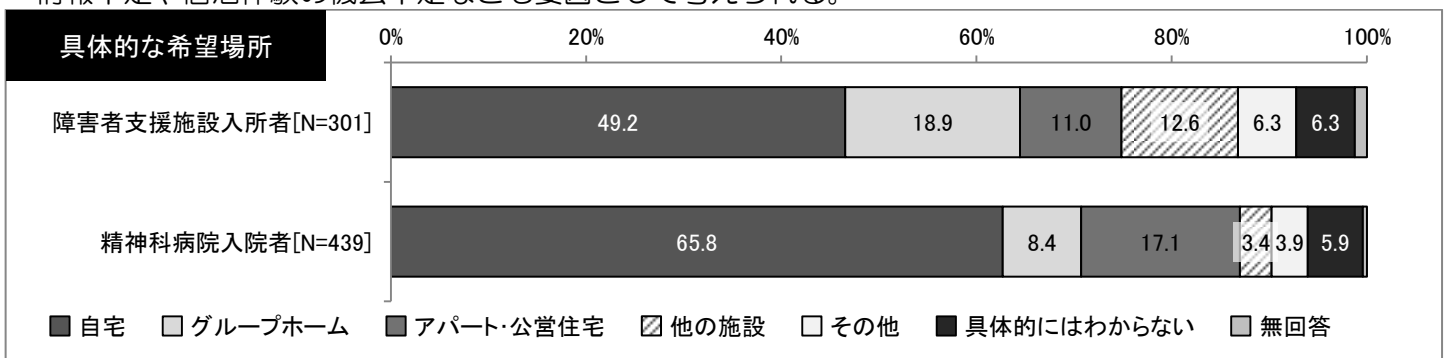
**◆障がい者本人の意向**

**(今後の生活場所の意向)**

- 入所者・入院者で、聞き取りの可能な人に対して今後の生活場所の希望を聞いたところ、施設入所者ではほぼ半数が「今いる施設での生活が良い」と回答している一方で、1/3以上が「違うところでの生活が良い」と回答している。病院入院者では、「病院以外での生活が良い」が6割超であるが、「病院での生活が良い」も2割超であった。また、入所待機者では、「入所施設での生活が良い」という人が半数超だが、「今いるところでの生活が良い」「別の場所での生活が良い(入所施設以外)」という人も約3割となっている。

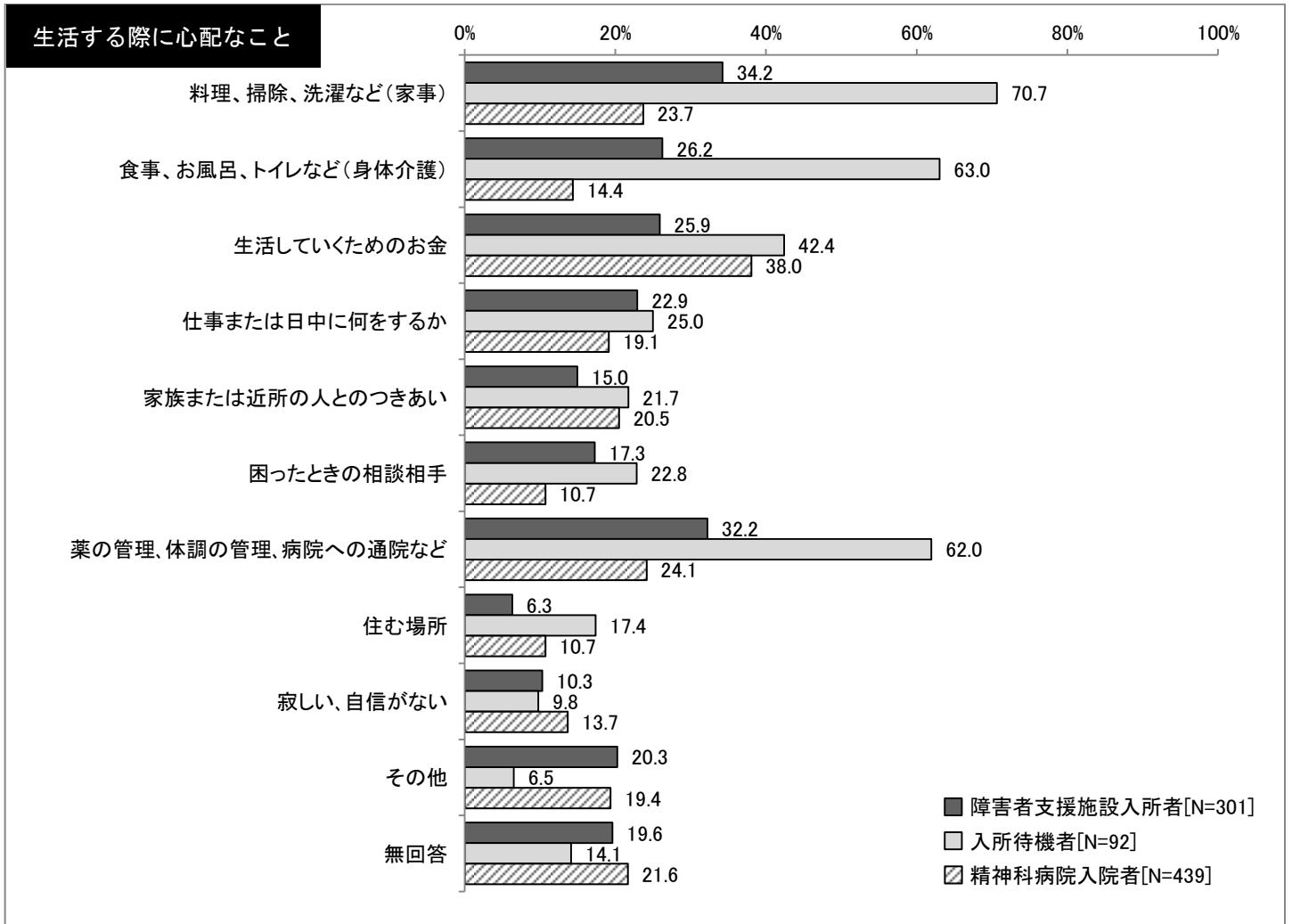


- 入所者・入院者で、「違うところ/病院以外での生活が良い」と答えた人に、具体的にどこで生活したいかを聞いたところ、「自宅」という回答が多く、「グループホーム」または「アパート・公営住宅」との回答は、3割弱となっている。
- 地域での生活を実現するためには、重度訪問介護など在宅者に対する障害福祉サービスの充実を検討していく必要がある。また、「自宅」が多くを占めることについては、グループホームなど他の生活場所にかかる情報不足や宿泊体験の機会不足なども要因として考えられる。



**(地域生活で心配なこと)**

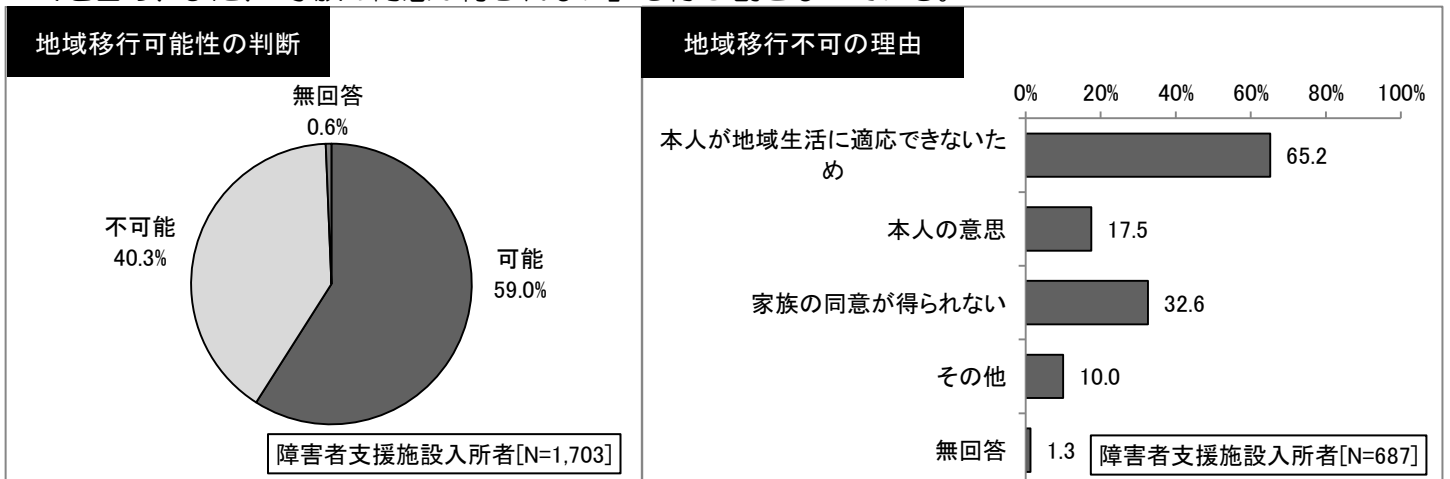
- 入所者・入院者で、「違うところ/病院以外」で生活する際に心配なこととしては、「料理、掃除、洗濯など（家事）」「薬の管理、体調の管理、病院への通院など」「生活していくためのお金」等をあげる人が多い。
- 一方、入所待機者が、生活する際に心配なこととしては、「料理、掃除、洗濯など（家事）」「食事、お風呂、トイレなど（身体介護）」「薬の管理、体調の管理、病院への通院など」等が高い割合である。



**◆支援職員の判断**

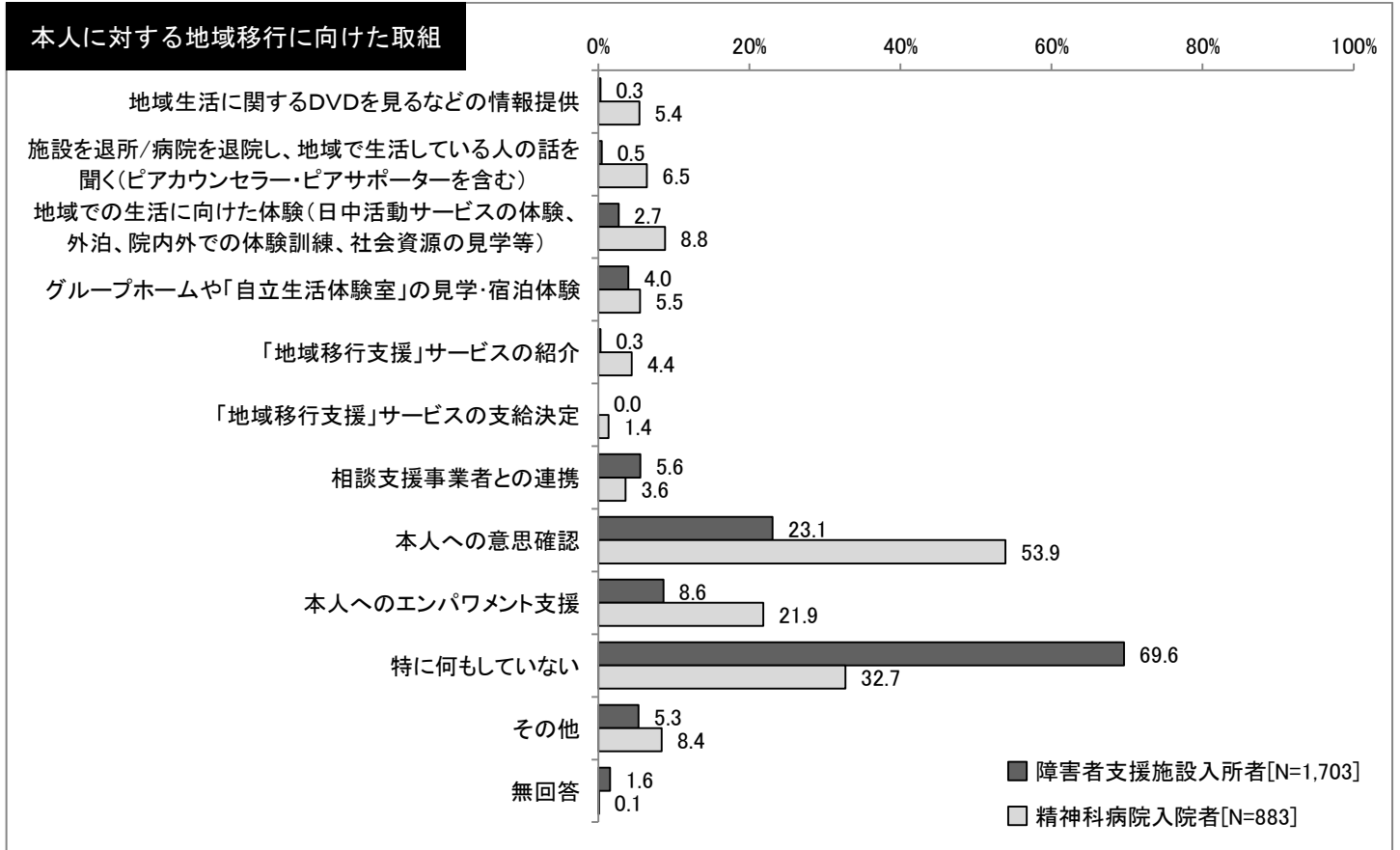
**(地域移行に関する職員判断)**

- 施設入所者の地域移行の可能性について、支援職員は、約 6 割の入所者について地域移行が「可能」と回答している。
- 地域移行が「不可能」と判断した場合の理由については、「本人が地域生活に適應できないため」が 7 割近くを占め、また、「家族の同意が得られない」も約 3 割となっている。

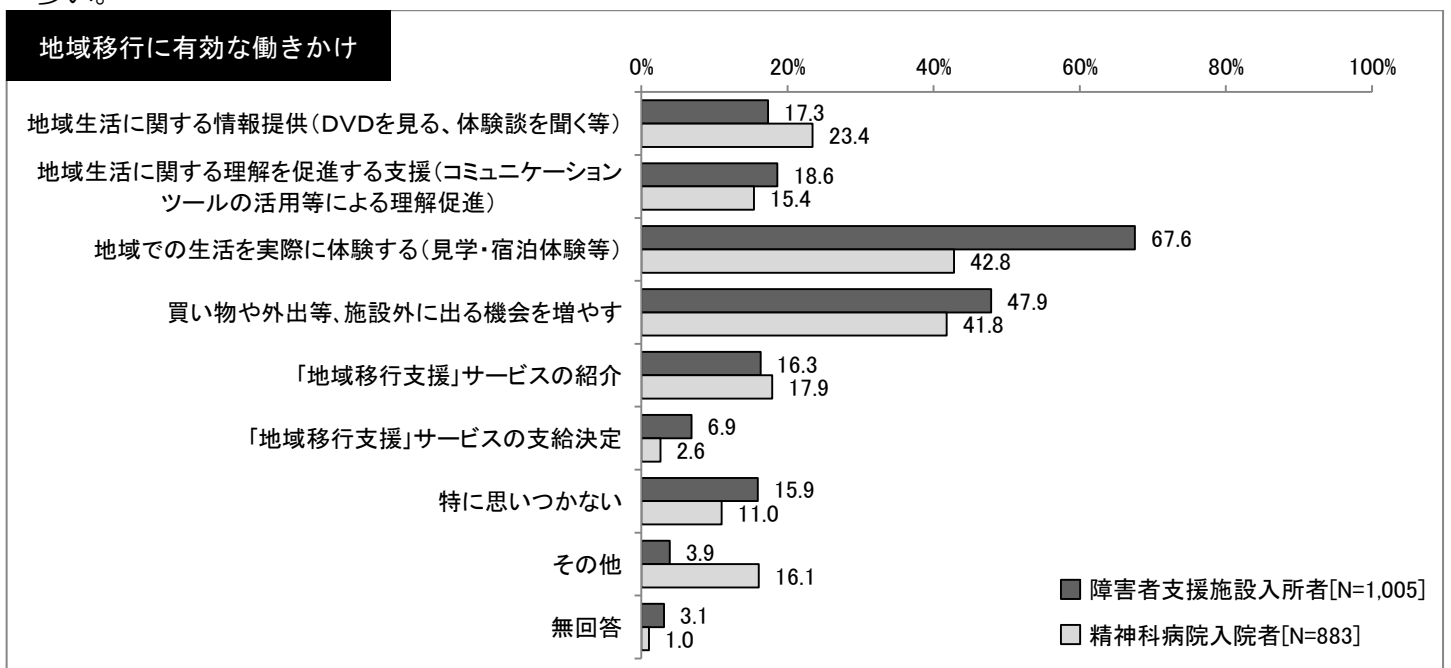


### (地域移行に向けての働きかけ、課題)

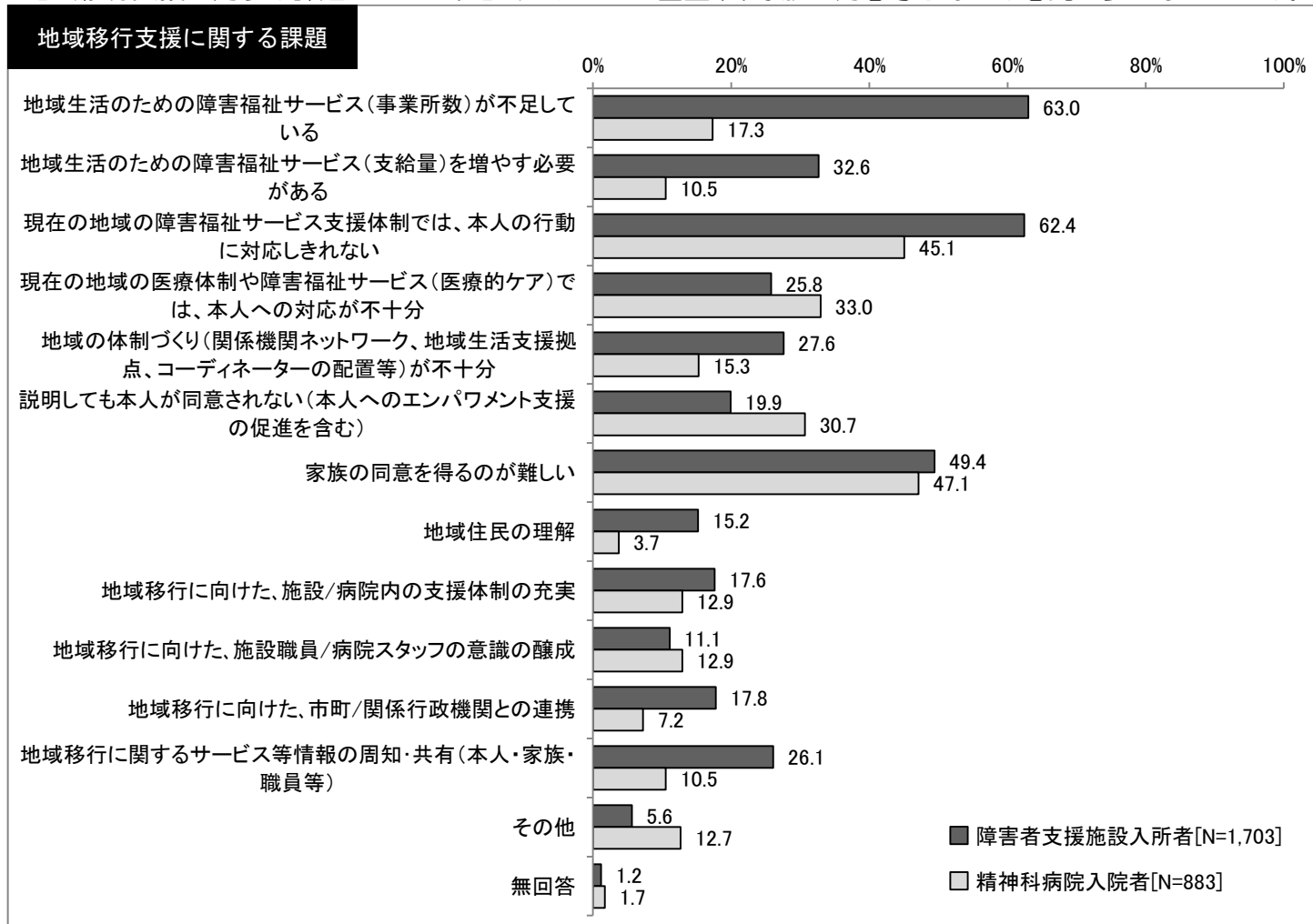
- 本人に対する地域移行に向けた取組として、行っていることを聞いたところ、施設入所者については、「特に何もしていない」が約 7 割、「本人への意思確認」が約 2 割となっている。病院入院者では、「本人への意思確認」がほぼ半数、「特に何もしていない」は約 3 割である。
- 地域移行が「可能」と判断される入所者は約 6 割であるにもかかわらず、実際に地域移行に向けた何らかの支援が行われているのは、約 3 割にとどまっている。サービス管理責任者は「自立した日常生活を営むことができる」と認められる利用者に対し、地域生活への移行に向けた必要な援助を行うことが義務づけられており、今後の取組推進が求められる。



- 地域移行について、本人に対する働きかけで有効と考えることとしては、「地域での生活を実際に体験する」「買い物や外出等、施設外に出る機会を増やす」など、施設/病院の外を経験することが重要とする意見が多い。



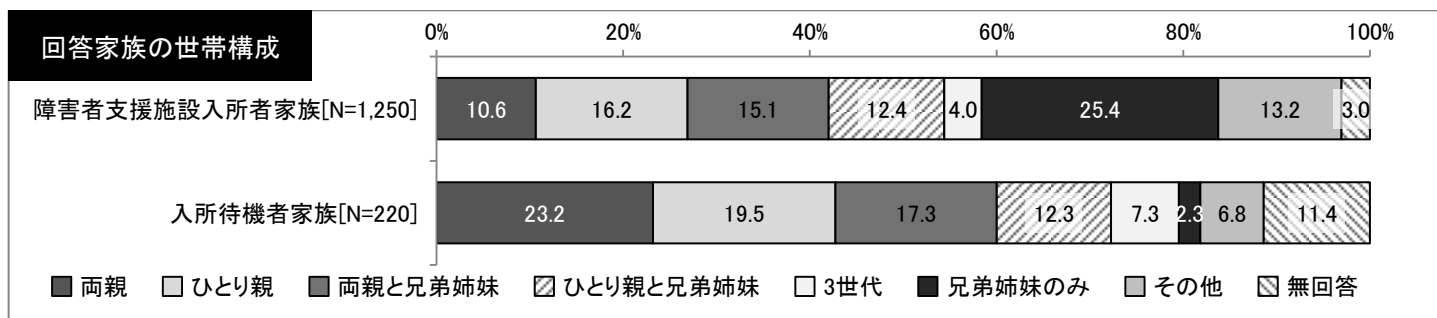
・地域移行支援に関する課題としては、地域のサービス基盤や、家族の同意等をあげる意見が多くなっている。



## ◆家族の意向等

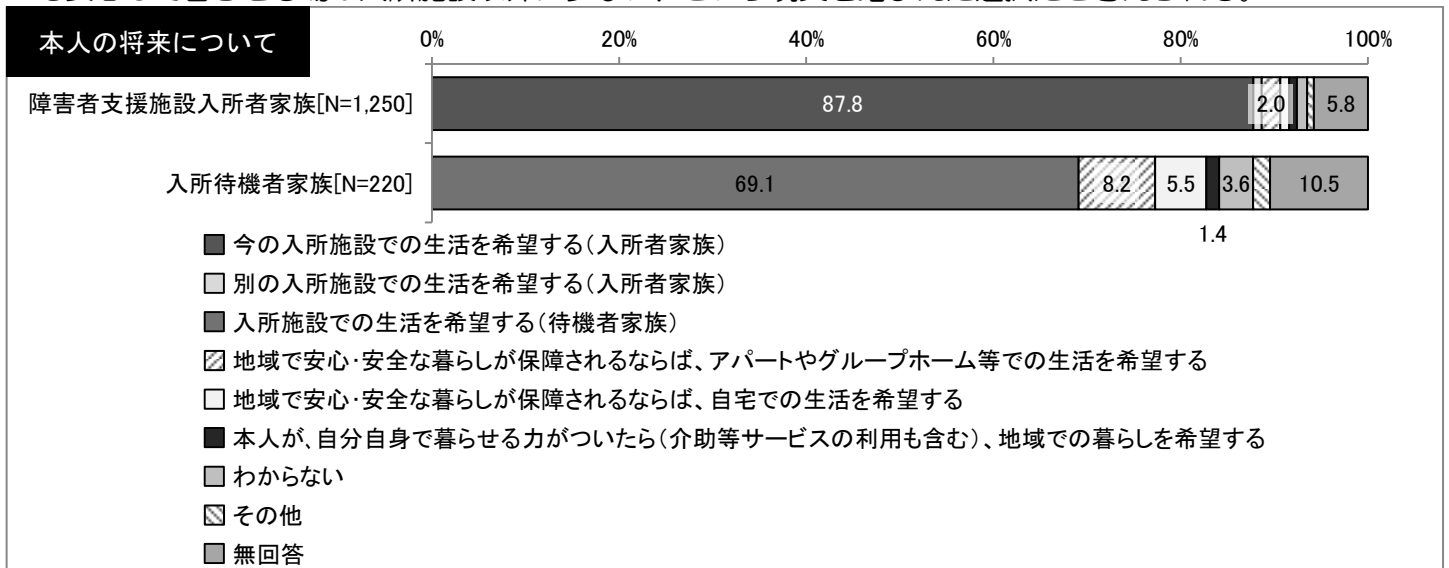
### (家族の年代、世帯等)

・調査に回答した家族の年代は、60代以上の方が、施設入所者の家族では約7割、入所待機者の家族では約6割を占め、高齢の人が多くなっている。世帯については、施設入所者の家族では、親のみの世帯・親と兄弟姉妹の世帯・兄弟姉妹のみの世帯がそれぞれ1/4ずつであり、入所待機者の家族では、親のみの世帯が約4割、親と兄弟姉妹の世帯が約3割となっている。

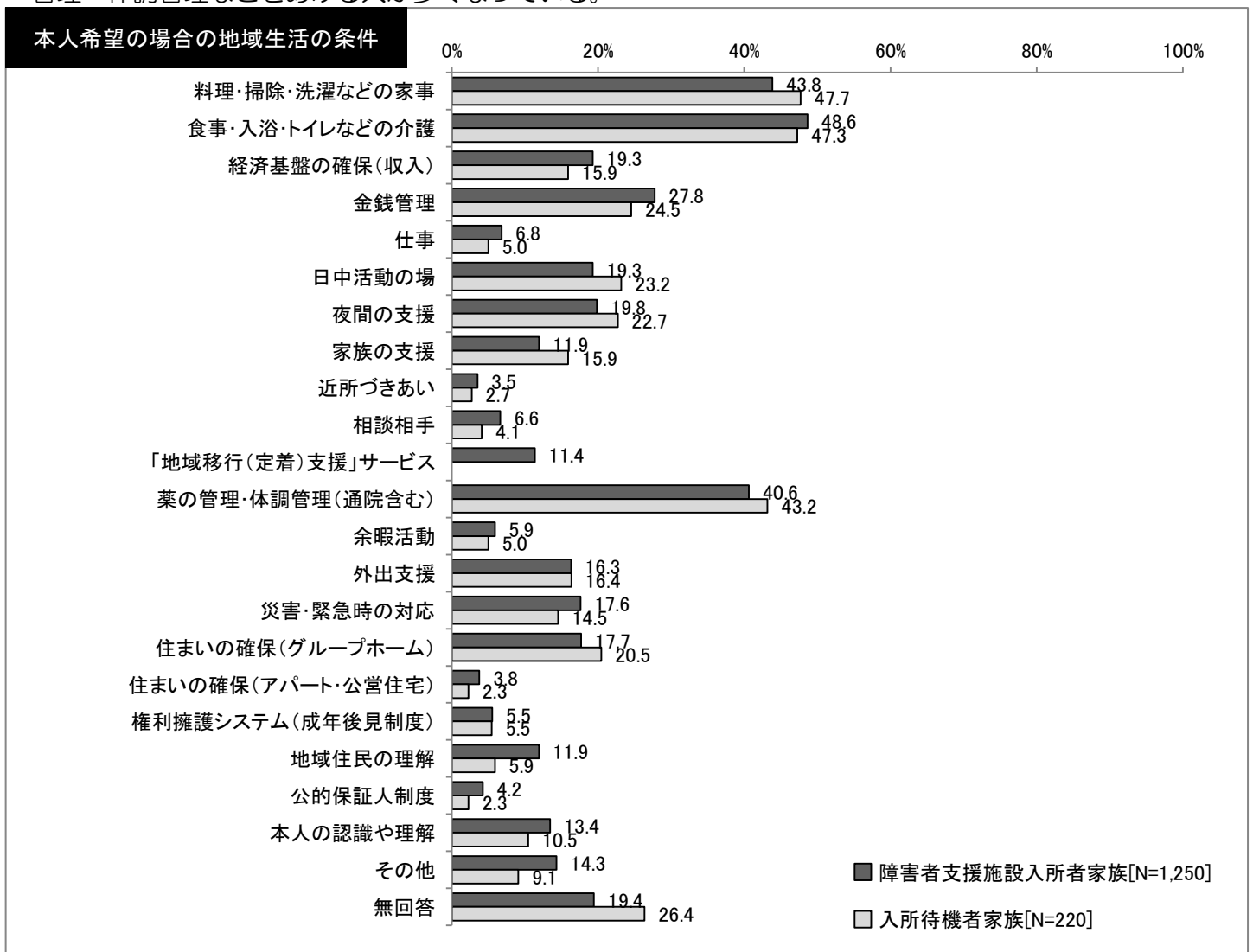


### (本人の将来についての家族の意向)

- 本人の将来の生活についての家族の意向は、施設入所者、入所待機者の家族とも、施設での生活を希望する人が多くなっている。入所待機者の家族では、地域で安心・安全な暮らしが保障されるなら/本人が自分自身で暮らせる力がついたら、地域での生活を希望する人が2割弱見られる。
- 入所者、待機者の家族とも、入所施設での生活に対する強い意向が明らかになったが、これは「親亡き後」も安心して暮らせる場が入所施設以外に少ない、という現実を踏まえた選択だと考えられる。



- 本人が希望した場合の地域生活の条件については、施設入所者、入所待機者の家族とも、介護や家事、薬の管理・体調管理などをあげる人が多くなっている。



## ◆施設入所者等の状態区分

### (障害者支援施設入所者の状態区分)

- 本人の「将来生活したい場所」の意向と、支援職員の「地域移行の可能性の判断」により、施設入所者の状態を以下のように区分した。

本人からの聴取状況	聴取可		聴取不可
将来生活したい場所 (本人の意向)	・違うところでの生活が良い	・今いる施設での生活が良い ・わからない	
地域移行の可否 (支援職員の判断)			
・可能	A	C	E
・不可能	B	D	

A：本人が地域移行の意思を表明、支援職員も可能と判断

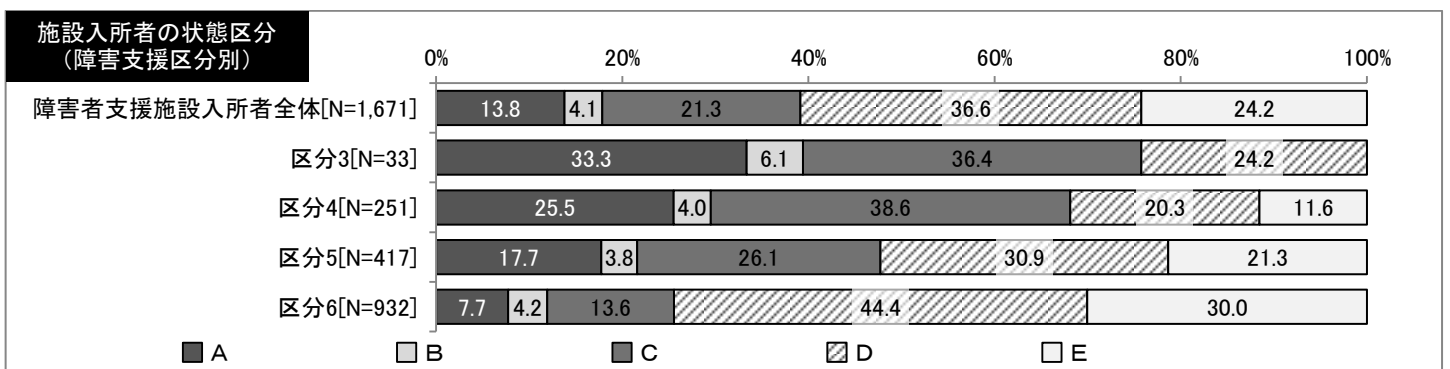
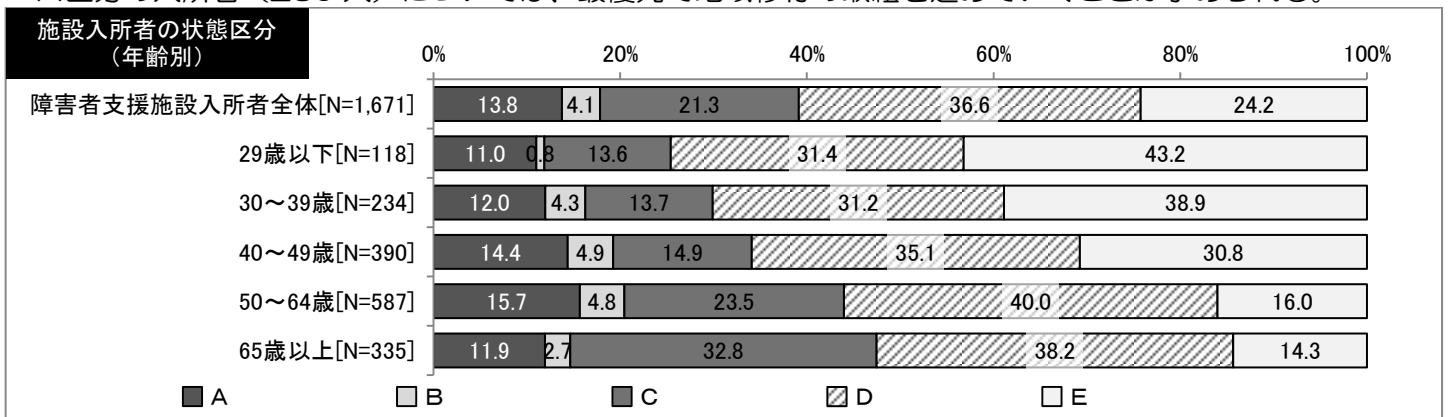
B：本人が地域移行の意思を表明、支援職員は不可能と判断

C：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は可能と判断

D：本人は地域移行の意思を表明せず、支援職員は不可能と判断

E：聴取不可能だが、支援職員は地域生活が可能と判断

- この区分によると、障害者支援施設入所者全体では、A区分が1割強、D区分が4割弱となっている。年齢別では、おおむね年齢が上がるにつれて、A区分、C区分の割合が高くなり、E区分の割合が低くなる傾向が見られる。障害支援区分別では、区分が重いほど、A区分、C区分の割合が低くなり、D区分、E区分の割合が高くなる傾向が見られる。
- A区分の入所者(230人)については、最優先で地域移行の取組を進めていくことが求められる。



### (施設入所待機者の状態区分)

- 本人の「将来生活したい場所」の意向と、家族等の「本人の将来について」の意向により、入所待機者の状態を以下のように区分した。

アンケート回答状況	回答可・聴取可		聴取不可
将来生活したい場所 (本人の意向)	・今いるところでの生活が良い ・別の場所での生活が良い (入所施設以外)	・入所施設での生活が良い ・わからない	
本人の将来について (家族等の意向)			
・地域で安心・安全な暮らしが保障されるならば、アパートやグループホーム等/自宅での生活を希望 ・本人が、自分自身で暮らせる力がついたら、地域での暮らしを希望	A	C	E
・入所施設での生活を希望する ・わからない	B	D	

A：本人、家族等いずれも地域生活を志向

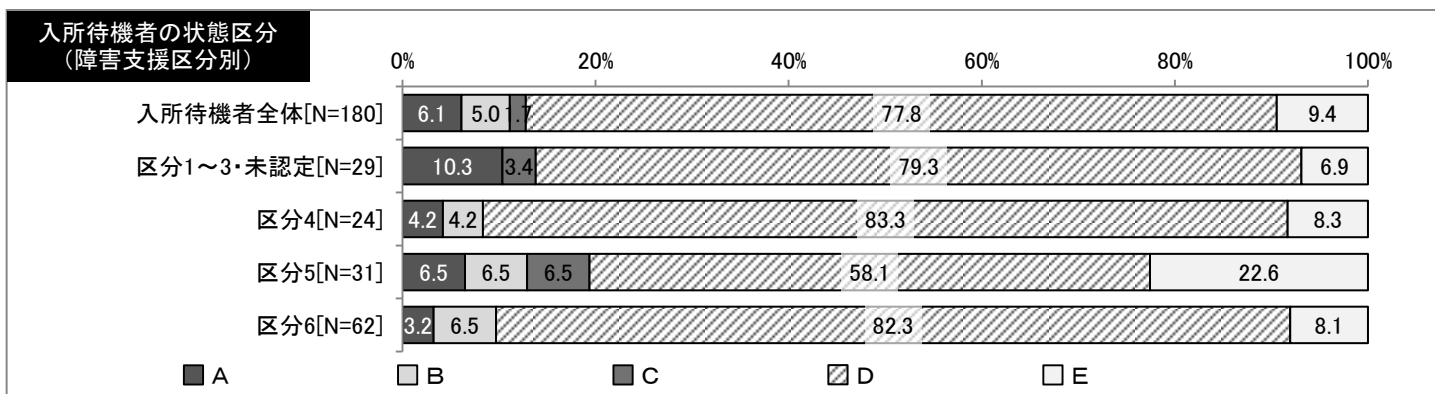
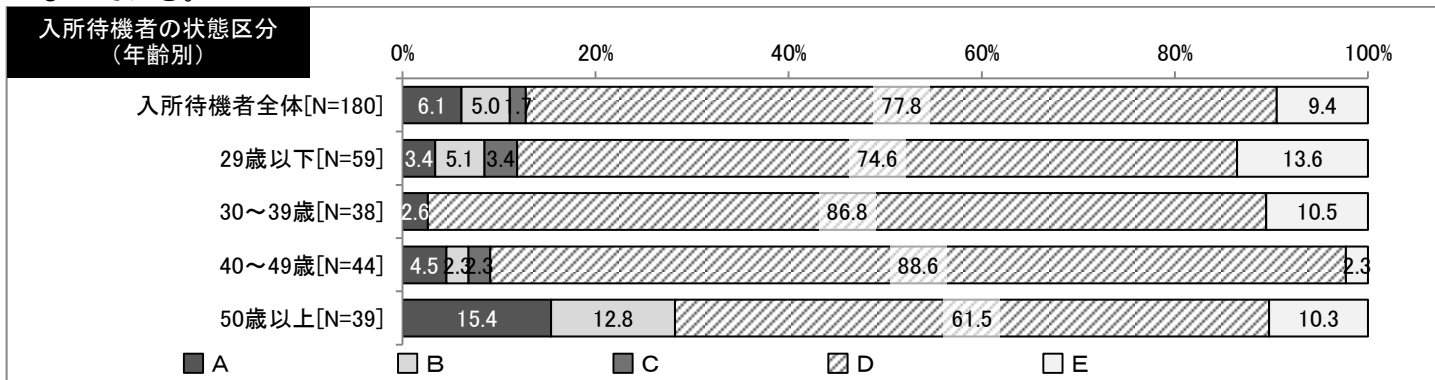
B：本人は地域生活、家族等は施設入所 (不明含む) を志向

C：本人は施設入所 (不明含む)、家族等は地域生活を志向

D：本人、家族等いずれも施設入所 (聴取不可・不明含む) を志向

E：本人は聴取不可、家族等は地域生活を志向

- この区分によると、入所待機者全体では、D区分が8割近くを占める。年齢別で見ると、50歳以上ではA区分、B区分の割合が比較的高くなる。また、29歳以下でもA～C区分の割合が比較的高い。障害支援区分別で見ると、区分1～3・未認定ではA区分の割合が比較的高く、また、区分5ではE区分の割合が高くなっている。



**(精神科病院入院者の状態区分)**

- 本人の「将来生活したい場所」の意向と、支援職員による「能力障害評価ランク」と「精神症状評価ランク」から整理した「状態群」により、入院者の状態を以下のように区分した。

本人からの聴取状況 将来生活したい場所 (本人の意向)	聴取可		聴取不可
	・病院以外での生活が良い	・病院での生活が良い ・わからない	
状態群 (能力障害・精神症状による整理) ・見守り、必要時の相談があれば地域生活が可能 (1群) ・いつでも直ちに支援できる 24 時間ケアがあれば地域生活が可能 (2群・3群) ・2群・3群に加え、介護支援必要度の高いサービスがあれば、地域移行が可能 (4群) ・継続して入院治療を要する状態 (5群)	A	C	E
	B	D	

- A : 本人が地域移行の意思を表明、状態群でも地域生活可能
- B : 本人が地域移行の意思を表明、状態群では入院治療が必要
- C : 本人は地域移行の意思を表明せず、状態群では地域生活可能
- D : 本人は地域移行の意思を表明せず、状態群でも入院治療が必要
- E : 聴取不可能だが、状態群では地域生活可能

- この区分によると、入院者全体では、A区分が約2割、D区分が4割弱となっている。年齢別で見ると、A区分、B区分の割合は、年齢が上がるにつれて低くなっている。
- A区分の入院者 (156人) については、最優先で地域移行 (退院) の取組を進めていくことが求められる。

